

## 【主な検討課題】

## 防護措置（防護装備）

- 防護レベルの基準（最新規格や国際的な動向も踏まえた防護レベルの細分化）
- 各防護レベルの適応範囲（環境（屋内外、化学物質の特性など）に応じた各ゾーンにおける防護レベルのあり方）

## ゾーニング（区域設定）

- ゾーン設定要領の見直し（環境（屋内外、化学物質の特性など）に応じたゾーニング）
- ゾーニングの判断（活動隊員の安全を確保し、かつ活動に最適なゾーンのあり方）

## 検知活動

- 効果的な検知活動（検知原理の異なる検知資機材の組合せによる有効な検知要領）
- 最新の検知資機材（活動隊員の安全性を向上し、かつ迅速な検知活動が実施できる最新の検知資機材）
- 関係機関との連携（各機関の任務に応じた検知活動のあり方と専門機関等との連携）

## 除染活動

- 除染要領（暴露状況に応じた除染の判断基準と除染剤等の活用）
- 除染のあり方（傷病者の容態悪化と迅速な救急・救助活動のバランスを考慮した除染）
- 状況に応じた除染方法（多数傷病者の発生や消防力が劣勢な現場などにおける国際的な動向を踏まえた除染）

## 実戦能力の向上

- 効果的な教育訓練（実災害が少ない現状における隊員育成と部隊の活動能力を維持・向上するための方策と支援体制）
- 教育訓練に資する資機材等（隊員の共通認識及び活動の統一化を図るためのツール等）